

初めて民泊を受け入れた家庭の体験談

民泊受入再開

令和5年5月12日、3年半ぶりとなる宿泊を伴う体験型民泊の受入を再開し、大阪市平野区にある大阪市立喜連（きれ）中学校の生徒を本市と福山市・大崎上島町が合同で受け入れました。

大柿市民センターで行われた入島式では、生徒代表の庄司さんたちによるあいさつや生徒と受入家庭の自己紹介を経て、体験交流のスタートが切られました。

今回、初めて生徒を受け入れられた、ある民泊家庭の体験談をご紹介します。

「入島式の後、自己紹介が終わったら、早速、私の車で自宅に向かいました。車中では、まだお互いに緊張しており、夕食のメニューの話などしかできず、少し不安でした。夕方6時に家庭に到着した後、地元で採れた玉ねぎやタコの天ぷら、タケノコの炊きこみご飯、ワケギの酢味噌和えなど夕食の調理を、おしゃべりを交えながら生徒と一緒にやっ

ると、自然と距離も縮まり、話も弾んできました。

生徒からは、島の風土や生活習慣に関する質問が多くありました。家族と同様に接していれば、交流が深まり学びあえる部分があると実感しました。

翌日の家業体験は、あいにくの天気でしたが、弁当を持って、島の散策に出掛け、沖美町の西側海岸を車で移動し、長瀬海岸で江田島湾を見ながら昼食をとりました。

離島式では、本当に名残惜しい気持ちで、記念撮影をし、お別れの挨拶をしました。生徒も同様に、感じていたようでした。

今回、初めての経験でしたが、初心者の中でも、生徒と時間をかけて交流する中で、心を通わすことができ、充実感がありました。今後も民泊受入を続けていきたいと思いましたが、また、生徒からもっと喜ばれる体験がないか、先輩家庭の皆さんにも教えていただきながら探していきたいと思えます。

民泊の受け入れ家庭が減っており、市の担当者さんも苦慮しているとお聞きしました。もし、以前受入られていたけれど休止されておられる方や、新たに自宅を手に入れ民泊活動に興味がある方がいらっしゃれば、ぜひ一緒に活動してみませんか。民泊活動に関心を持たれた方は、お気軽に交流観光課までお問い合わせください。



1



4



3



2

1 離島式後、バスが見えなくなるまで手を振る民泊家庭の方々 2・3・4 家業体験（右から海釣り、ビーチでハート石探し、さとうみ科学館見学）5 別れを惜しむ生徒と民泊家庭さん



5

